琉球大学学術リポジトリ

大学博物館風樹館を利用した博物館学関係授業の改善

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2023-04-27 キーワード (Ja): 大学博物館, 風樹館, 学芸員, 博物館実習, 展示紹介動画, ワークシート キーワード (En): 作成者: 後藤, 雅彦, 主税, 英徳 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002019741

大学博物館風樹館を利用した博物館学関係授業の改善

後藤　雅彦・主税　英徳
琉球大学国際地域創造学部

要　旨

博物館関係授業では博物館の展示の企画・広報から実際の展示という流れの中で、実践的な取り組みが求められる。令和３年度大学教育支援経費（教育改善等支援経費）の交付をうけ、琉球大学の大学博物館である風樹館を活かして、展示紹介動画やワークシートの作成を行った。そこで、本稿では本取り組みをふまえて、展示紹介動画とワークシートの作成について主に取り上げ、今後の展開も含めてその有効性について検討した。

キーワード

大学博物館、風樹館、学芸員、博物館実習、展示紹介動画、ワークシート

1 はじめに

琉球大学では、1995（平成７）年より、学内外の強い要望から博物館学関係授業を開講した。現在、国際地域創造学部、理学部を中心に毎年50名前後の履修希望者を受け入れており、卒業後、沖縄県下をはじめ、全国の博物館及び文化財行政で活躍している者も多い。

博物館関係授業[i]では博物館の展示の企画・広報から実際の展示という流れの中で、実践的な取り組みが求められる。令和３年度大学教育支援経費（分類１：教育改善等支援経費）の交付をうけ、琉球大学の大学博物館である風樹館を活かして、受講生が作成した展示説明などを風樹館の中で公開するためのノートPCとプロジェクター、ワイヤレス拡声器を整備することにした。

2021年度については、コロナの感染状況により、多人数が参加する授業では各自が風樹館を見学し、オンラインでワークシートを提出するなど風樹館の利用を進めたが、実際の機器類の利用は少人数が対面で参加する博物館実習Ⅱの補講の中で実施した。

博物館実習Ⅱは、学内実習（博物館実習Ⅰ）で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念や設置目的、業務の流れなどに対する理解を深めると同時に、博物館資料の取り扱いや教育普及活動、来館者対応など実務の一端を担うことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身につけ、博物館で働く心構えを養うことを目的にしている。

多くの大学でコロナ禍の博物館実習運営に苦慮している[ii]。それは実習が人と接することを基盤（そもそも博物館活動、学芸員の業務自体が人と接することを基盤）（黒澤2022）としているからである。

実際、2021年度の博物館実習Ⅱは、コロナの影響で実習期間の短縮があった館があり、大学において補講を実施することが必要となった。

そこで、理系と文系の内容で補講日を4日を設定し、各自、実習時間を充足させるべく２日

ないし１日、補講を選択した。

補講のメニューは下記のように設定した。

補講A: 10月16日（土）

講義（生物の採集方法、生物標本の作成方法、博物館標本の役割など）

実習（キャンパス内で昆虫採集、昆虫標本の作成）

補講B: 10月17日（日）

講義（UXについて、博物館・美術館の紹介）

演習（マインドマップの活用）、グループワーク（実習Iで作ったゲームの改善）

補講C: 11月６日（土）

考古学調査体験（測量など）、 博物館資料の記録カード作成

補講D: 12月９日（木）

博物館実習生による風樹館のおすすめ展示動画作成

補講Dでは、同上機器類を使用し、展示説明を行うことによって実際の館で行う実習に近い状況で授業を行うことができた。以下、本取り組みで実施した展示紹介動画とワークシートの作成について具体的に紹介し、今後の展開について検討を加えていく。

２　展示紹介動画の作成

コロナの多大な影響をうけた博物館ではあるが、学芸員の創意工夫によって、博物館は発信を続けている。オンラインで、博物館の収蔵品や博物館（学芸員）の取り組みなど博物館を紹介するいわゆる「おうちでみゅーじあむ」である。

2020年度の博物館実習Ⅱを依頼した沖縄市立郷土博物館において、実習の一環として「オススメの資料」の紹介を動画作成して、現在でも公式facebookで閲覧ができる。

これらを参考にして、補講の１つとして、博物館実習生による、風樹館のおすすめ展示紹介動画の作成を行った。風樹館は、自然系展示室と文科系展示室に区分されるが、補講希望者が文系・理系ともにいたことから、各自の関心に応じて生物標本と美術工芸の展示を説明することになった。

その内容を具体的にあげると以下のようになる。

（美術工芸）

紅型の型紙

首里花倉織衣装

琉球大学（校章）紋入螺金田大平ナツメ

（生物）

沖縄のセミ

沖縄のサンゴ

受講生各自の関心で対象展示を選び、自分で調べ、事前に１分間の読み原稿を用意しても

写真１　動画撮影状況①

写真２　動画撮影状況②

らった。そのような下調べ・準備が大切であることも指導内容の一つといえる。

また、動画を作成するだけでなく、作成したものを共有化し、互いに良い点、改善すべき点を意識することが大切であると考え、風樹館の中で、動画を映写することにした。風樹館のエントランスの壁面を利用すると写真３のように十分な画質を保つことができた。博物館内部にこのような展示の説明を設置することも有効な方法になると考える。

写真３　動画撮影状況③

３　ワークシートの作成

博物館情報メディア論及び博物館教育論の授業では、風樹館の所蔵資料を用いたワークシート作成を行っている。授業の概要は以下のとおりである。

博物館情報メディア論は、博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題などについて理解し、博物館の情報提供と活用などに関する基礎的能力を養う。主に、博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題などについて理解し、博物館の情報提供と活用などに関する基礎的能力を養う。

博物館教育論は、博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。博物館教育論では、博物館教育の意義と理念、博物館の利用と学び、博物館教育の実際について講義する。

ワークシートについては、「ワークシート利用の学習効果は、資料についての知識を一つ増やすということだけではなく、資料の見方とそのおもしろさを知り、ミュージアムの楽しみさを知ることにある。」（木下2010）という重要な指摘がある。本ワークシートでも直方市バーチャルミュージアム（nogata-virtualmuseum.jp）の記載内容を参考に「これ何？」、「ここがツボ！」を設けることによって、当該資料のおもしろさを表現するよう努めた。

直方市バーチャルミュージアム（nogata-virtualmuseum.jp）では、HPの最初に「直方って、どんなとこ？」と問いかけ、「いつでも、どこでも皆様が訪れるたびに「お！」と思う発見がある場所、それが直方というところです。」としている。地域を重視した取り組みを行っている点は高く評価できる[iii]。

風樹館を利用した博物館情報・メディア論、博物館教育論　課題　　2021 年度

博物館資料の解説・ワークシート用のクイズ作成

学籍番号（　　）　氏名（　　）

□水曜日博物館情報･メディア論履修　⇒　課題　A～C
（※あわせて博物館教育論を履修している者は D も含む
→　Web クラス「博物館情報･メディア論」で提出）
□木曜日博物館教育論のみ履修　　⇒　課題 A･D（※Web クラス「博物館教育論」で提出）

【課題】

琉球大学博物館風樹館のデータベースより、１つ資料を選択し、下記の情報を作成してください。

※風樹館に記載されている情報を転載するのではなく、自分で考えて作成すること

A 基本情報

・カテゴリー　（　　）
・標本 ID 番号　（　　）
・資料名　（　　）
・収集場所　（　　）

・写真があれば添付

B これナニ？

（例）弥生土器壺(1) 直方市バーチャルミュージアム nogata-virtualmuseum.jp
…　文様がきれいな土器で、肩の部分には、羽状文(鳥の羽のような模様)、重弧文(半円を重ねた模様)がつけられています。この壺にどんぐりやお米などを入れて保管していました。

C ここがツボ！

（例）弥生土器壺(1) 直方市バーチャルミュージアム nogata-virtualmuseum.jp
…　いわゆる遠賀川式と呼ばれるもので、朝顔形に開く口縁部をもち、頸部には明瞭に段が施されています。口径 22.0 ㎝、底径 10.0 ㎝、器高 35.1 ㎝をはかります。羽状文及び重弧文は二枚貝の貝殻で施されており、外面と内面の一部には、赤色顔料が塗られています。貯蔵穴に廃棄された状態で見つかっていましたが、器表面の調整も明瞭に残っています。

D クイズの設定

◎目的：観覧者を対象に、展示品（※A で選択した資料）への理解や関心をより深める

①対象者（小学生・中学生・高校生・一般）　該当するすべての〇をする。
②クイズの内容
③解答例

図１　ワークシートの事例

また、ワークシートの改善について、木下周一（2006）は「シリーズの中で人気のないワークシートは、はずしてしまうのではなく、その原因を探りたい。ミュージアムでの学びの有効なヒント、展示の改善へのヒントが得られることがある。」とした点は重要であろう。

なお、ワークシートの有効性の一つに「展示を変更せずに、年齢別、学習段階別に、内容を編集し計画できる」（木下2010）点にあるため、本ワークシートのクイズについて、対象者を考慮しながら設定した。

4　今後にむけて

2022年度については、博物館実習Ⅱ受講生が前年度に比べて少ないこともあって、文系補講希望者が３名になったため、資料の取り扱いを主に、動画作成については前年度の作成分の閲覧と意見交換を実施することにした。

風樹館のおすすめ展示紹介動画については、風樹館の豊富な収蔵資料からすると、多くのバリエーションを作成することが可能である。それは博物館実習の補講としてばかりでなく、その目的によっては博物館関係授業を含む他の専門科目の中での実施することもできる内容であることを、本取り組みで確認することができたことは有益であった。実施方法や有効な活用については今後の検討課題としたい。

また、ワークシート作成については、2022年度も実施することができた。文系・理系の学生ともに各自の自主的な学びの上で、工夫を凝らしたワークシートとなっている。ただし、各自が作成したものについて、良い点、改善すべき点などを確認しながら共有していく方法も検討する必要があろう。

こうしたワークシート作成の実践は、他の授業科目でも応用が利く。2022年度より新設した共通科目「歴史を探る」は、「歴史を（受講生）自らが探ること」を念頭に置いた授業である[iv]。同授業では、「博物館」、「図書館」、「史跡・遺跡」の３つをテーマとして、歴史を考える機会を提供するとともに、自らが探ることを目的としており、授業実践としてワークシート作成を取り入れている。受講生も17名と共通教育では少人数であり、各自が作成したワークシートの内容を授業で発表し、共有化することを行っている。

コロナ禍の中、博物館実習の運営として、「動画配信やリモート会議システムの活用術、博物館運営におけるVR技術の応用」などについて考える機会となったと同時に、「資料を扱う経験の重要性」についても改めて気づくことになった（山下2022）とされる。

オンラインによる発信は、ますます重視されることになるであろうが[v]、資料自体にふれる経験、実際に現地（博物館）に行くことの大切さを見失ってはいけない[vi]。

筆者らが実施している考古学関係授業は、地域に貢献する人材の育成を目的としている。

2021年度琉球大学の「地域志向活動トライアル経費による正課科目における地域志向取組」を考古学実習にあたる「考古学研究方法論Ⅰ・Ⅱ」に対して実施した。取り組みの趣旨は、「遺跡の保存と活用」をテーマに、現在取り組んでいる人々と情報交換を行うことにより、専門性・問題解決能力を有した人材の育成を目標とするものである。読谷村と恩納村、大宜味村と名護市の大きく２つのフィールドを対象として、それぞれ12月と３月に実施した。その成果を主税・後藤（2022）に紹介したが、その中で主税は、新型コロナウィルスの影響により、

人との接触が制限されている現在、大学での学習が「机上」、すなわちパソコンと向き合うものが基本となっているのに対し、学生自身が「遺跡」現地に行くことに必要性を考える機会を失っているかもしれないという危機感をもち、「机上だけの研究にならないように促すことも大学の考古学教育に必要である」ことを再認識することができたとした。

また、展示紹介動画やワークシートの作成は、ともに受講生である学生の多様なアイディアがあったからこそ実行できたものである。今後も、「博物館実習という科目は、教員が指導するのではなく、学生と一緒に作り上げていく科目である」（黒澤2022）という意識を大切にしていきたい。

大学博物館は、「新たな学術領域の創出や展示、教育普及における研究活動などを実験的に行い、博物館のあらたな資源開発の可能性をひきだす」（洪2010）ことがその特徴にあげられている。その点をふまえると、本稿で紹介した展示紹介動画とワークシートの作成は、博物館関係授業での継続的な運用と他の授業科目での応用の可能性という展開をもつものと確信すると同時に、オンラインを含めた博物館の発信に関するあらたな資源開発につなげていきたいと考える。

本取り組みの実施にあたっては、風樹館の佐々木健志氏、博物館関係授業の運営に関わる理学部の広瀬裕一氏、小林峻氏にご協力いただいた。記して感謝の意を表したい。

注

[i] 専門科目20単位、博物館概論、生涯学習概論、博物館経営論、博物館資料論、博物館展示論、博物館情報メディア論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館実習Ⅱは国際地域創造学部の開講科目、博物館実習Ⅰは国際地域創造学部と理学部で各々開講している科目である。

[ii] 文化庁のHPの学芸員養成課程開講大学一覧（令和４年４月１日現在）には292大学があげられている。その内訳は４年生大学286校（国立54、公立22、私立210校）、短期大学6校である。
（https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/shinko/about/daigaku/2022年12月30日閲覧）

[iii] 文化財を探す検索の項目に「小学校区」が設定されている点も、地域を重視した取り組みといえる。

[iv] 2022年度より国際地域創造学部歴史系教員と共通教育科目の歴史関連科目の改編を行った。従来の日本史・西洋史・東洋史の枠をこえて、「歴史を知る」、「歴史を探る」、「歴史を考える」「歴史を深める」「歴史を学ぶ」「歴史を見る」を新設することにした。

[v] オンラインの有効性については、「コロナ禍だからこその発信」という積極的な取り組みが紹介されている（三好2021）。そこでは、飛騨市の取り組みが紹介されており、飛騨市の文化財保護行政は、市民の飛騨市愛を醸成することと文化財発信を通じて飛騨市ファンを増やすことの２つの側面があげられている。オンラインだからこそ２つの側面が可能になると考える。

[vi] 「博物館で印象に残った「モノ」をネットで調査したり、逆にネット上で気になった「コト」を博物館に来館して「モノ」で確認するといった双方向の活用方法」の可能性が指摘されている（小川2021）。

引用文献

小川義和「おわりに～新たに知を生み出し、継承し、発信する博物館を目指して～」小川義和・五月女賢司編著『発信する博物館　持続可能な社会に向けて』ジダイ社、2021年、344-390頁

木下周一「ワークシート　デザイン」『博物館の学びをつくりだす　その実践へのアドバイス』ぎょうせい、2006年、114-136頁

木下周一「ワークシート」日本展示学会出版事業委員会編『展示論－博物館の展示をつくる－』雄山閣、2010年、128-129頁

黒澤浩「南山大学の博物館実習－取り組みとその考え方—」全国大学博物館学講座協議会『全博協』第24号、2022年、13-24頁

洪恒夫「大学博物館　東京大学総合博物館」日本展示学会出版事業委員会編『展示論－博物館の展示をつくる－』雄山閣、2010年、210-211頁

主税英徳・後藤雅彦2022「考古学における地域志向取り組みの実践－コロナ禍における考古学教育の一例－」『地理歴史人類学論集』第11号、46-56頁

山下大輔「関西大学博物館におけるコロナ禍での博物館実習の取り組み」全国大学博物館学講座協議会『全博協』第24号、2022年、1-11頁

三好清超「飛騨市におけるコロナ禍だからこその発信」『季刊考古学』第154号、2021年、133頁